

◆「マキラボ」の事業紹介 「マキラボ」では、主に次の5つの事業を行っています。

①施設活用事業

教室を活用し、社員研修や打ち合わせなどの会場として貸し出しています。(写真はスマホ教室)



②DX・スマート事業

AIやドローンなどの先進的なスマート農業技術を地域の茶業に導入しています。



③宿泊・合宿・企業研修事業

「遊んで泊まれる小学校」として、大学生や企業などが利用しています。



④教育事業

地域の外国籍児童を対象にした日本語初期支援教室「いっぽ」などを実施しています。



⑤まちづくり事業

イベント開催やこども食堂の実施など、交流の機会を創出しています。(写真はカタショー結婚式)



◆「令和7年度ふるさとづくり大賞」優秀賞(総務大臣賞)を受賞

令和8年2月8日、東京都の都市センターホテルにて、総務省が実施する「令和7年度ふるさとづくり大賞」表彰式が行われ、「マキラボ」が優秀賞(総務大臣賞)を受賞しました。

「ふるさとづくり大賞」とは、「ふるさと」をより良くしようと頑張る全国各地の団体や個人を表彰することにより、ふるさとづくりへの情熱や想いを高め、豊かで活力ある地域社会の構築を図ることを目的として実施している表彰です。

「マキラボ」は、市民や企業、行政との連携によって、交流人口の増加や、地域経済とコミュニティの活性化を継続的に実現。廃校を活用した取組は全国にも多くある中、宿泊事業などにより自主財源を確保しているとともに、教育や多文化共生などの地域課題に行政と協働しながら、民間の力を生かして取り組んでいる点が評価され、今回の受賞につながりました。

受賞にあたり、浅野代表取締役は「応援して下さる地域や企業の皆さまに深く感謝し、今後も牧之原市を拠点として、日本を強くする挑戦を続けていきます」と話しました。

令和7年度ふるさとづくり大賞表彰



表彰式にてあいさつする浅野代表取締役

日本語初期支援教室「いっぽ」に通う子どもを送迎していただく ドライバー(運転手)を募集しています

[勤務時間] 月～金曜日(土・日曜日、祝日は休み)
▶午前＝午前7時45分～午前10時
▶午後＝午後3時30分～午後5時45分

[勤務地] カタショーワンラボ(片浜1216番地1)
[給与] 時給1,180円

[応募資格] ▶普通自動車運転免許(AT限定可) ▶65歳までの元気な人
▶LINEの基本操作ができる人

[申込先] 株式会社マキノハラボ 教育事業部 大石
☎090(8470)4180 ✉education@makilabo.jp



株式会社マキノハラボ(以下「マキラボ」)は、廃校となった旧片浜小学校を活用し、「新たな教育・人づくり」をコンセプトに、多文化共生教育やスマート農業、宿泊事業の多岐に渡る事業を展開している市内企業です。

今回、「マキラボ」が行う地域活性化のための取組が「令和7年度ふるさとづくり大賞優秀賞(総務大臣賞)」を受賞しましたので、その活動内容を紹介いたします。

問い合わせ 企画政策課 大石 ☎0045

◆「マキラボ」とは

「マキラボ」は、人口減少と少子高齢化による旧片浜小学校の閉校(平成29年3月31日)を契機に、平成30年2月に地域の活性化を目指し、福代孝良さん(坂部区出身。現株式会社アーケッジスペース代表取締役CEO)を中心として、地元出身者の個人5人で設立。選定委員会を経て、「マキラボ」が旧片浜小学校の運営事業者として決定しました。

その後、市と「土地建物賃貸借契約」「旧片浜小学校施設の管理運営に関する協定書」を締結。平成30年4月1日から、地域資源としての学校施設を最大限に活用し、「新たな教育・人づくりの拠点」として、多文化共生を軸とした教育支援や人材育成、観光および交流拠点を目指して運営を開始しました。現在は浅野拳史代表取締役を中心に、国際経験などが豊かな若者たちにより運営されています。

旧校舎は会議室や交流スペースとして利用されており、最近では大学生の団体や家族連れ、企業研修などの宿泊利用が急速に増加しています。宿泊者数は年間6,500人、利用者数は年間4万人を超え、地域経済の活性化にも大きく貢献しています。



◀現在、「マキラボ」で働くスタッフ

株式会社マキノハラボが
「ふるさとづくり大賞」優秀賞を受賞